



会員近況

ライオン株式会社 システム開発部 梅津 尚夫

経営やマーケティングの意思決定など複雑な要因を含むモデル作りには直面して、必要なデータをいかに収集するかが大きな問題である。データがないから分析ができないとか、データのある部分だけモデル化するというのは真の問題解決からは遠い。このような苦労は、永年分析作業を企業内で行なってきて身にしみている。一説によると正しく目的にかなったデータをそろえることで分析作業の80%が費やされるとも言う。

2年前、システム関係の業務を始めてまず手がけたのは、このような理由から社内データバンクの作成であった。一応の基礎データがそろったところで、もっかDSS（意思決定システム）やマーケティング計画モデルにとりくんでいるが、最近の特集では、効用理論、FUZZY理論、データベースなどに関心をもって読んだところである。

千葉大学法経学部経済学科 藤井 良治

OR学会の会員でありながら、送られてくる機関誌を積み重ねるだけの万年冬眠会員です。今春から現在の大学に移り、これまで少々手がけてきた医療経済の分野での仕事をもう少し組織的にやってみたいと考えております。

この分野の研究は、一部の先駆的研究を除いて、わが国ではまだ本格的に研究する人がおらず、これからという観があります。しかし、経済学同様、数学モデル操作や計量化偏重に陥ることなく、何よりも人間が中心となる医療をいかに、経済、社会システムの中で評価し、効率的に進めたらよいかという点を忘れないようにしたいと考えています。

最近、専門ではありませんが、手もとにあるマイコン（Apple II）を使って、マイコン（FORTRAN）による統計処理の入門書を書き始めました。1画面にプログラムを収めようとする、サブルーチン化しなくてはならず、そこからモジュール化、構造化の問題にぶつかって

おり、BASIC同様、マイコンFORTRANの不備を痛感しております。

三菱総合研究所 計画システム部 木下 知己

私は三菱総研に入社して10年を経過しました。その間に経営、交通、流通、環境等経済社会問題のシステムアナリストおよびシステムプランナーとして従事してきました。最近の研究の中では、わが国で初めてフロンガスの成層圏オゾン層破壊をもたらす地上への有害紫外線量の増加についての、フロンガス放出と成層圏オゾン減少に関するシミュレーションモデル分析を行ないました。モデルは実験室での光化学反応の反応速度係数や太陽からの光エネルギー量、拡散係数等の諸条件より作成しました。今後のフロンガス放出に対する成層圏オゾン減少率の予測を、現状といくつかの対策を講じたケースについて行ないました。現状のままだと一定の減少率に収束するものが、何らかの対策を講じることによって速度は遅くなったり、何十年後にはほとんど影響が現れないケースも出てまいりました。

東京銀行 調査部国内経済課 平島 真一

現在、主として国際収支および外国為替相場の追跡と予測の仕事にたずさわっています。

変動相場制に移行して約10年がたち経験とデータが積み重ねられて、為替相場決定理論にもストック均衡視点の導入等一応の進歩がみられました。しかし現状、数式モデルによる典型的なケースの分析にとどまり、実際の為替相場予測には不十分であるといえます。

実際の為替相場予測がむずかしい理由としては、(1)期間によって為替相場の主たる変動要因が入れかわっていること、(2)米国金利のような外生変数の予測自体が困難な情勢になっていることなどを挙げることができましよう。

過去については、経常収支（ないしは累積経常収支）の動きで為替相場の動きをほぼ説明できましたが、1980年にはオイル・マネーの流入が、1981年後半～現在までは本邦長期資本の流出が、それぞれ相場変動の主因となったのです。

今後は、これらをすべてうまく取扱えるモデルの開発、外生変数となるアメリカの金利動向の予測改善などに努めるとともに、フィルター理論も含めた時系列分析にも手を染めていきたいと思っています。